第80回新人コミック大賞少年部門入選作!!

2

知らない海の底

紺野アキラ

不思議な世界に
浸りたいこと…
ありませんか？

紺野アキラ先生より

初めまして紺野アキラと申します。初掲載で拙い作品ではありますが楽しんでいただけたら幸いです！　これからもっと面白い作品をお届け出来るよう精進します。応援してくれた家族や友人、そして担当さん本当にありがとうございます！

チャ
ハァ…助かった。
ありがとう。
ポン

まあまあそんな顔するなよ。

ただ、君に協力してほしい事があるんだ。
コポポ

協力…?

私は深海からある奴を追って来た。

私は、そいつがやろうとしている事を止めたいんだ!そのために君に協力してほしい!!

よく分からんが
俺は協力しない！

いや、
協力すべきだ！
すいー

なんで…
……

よーし、
君、大声で
「あ――」って
言ってみて。
え!?
さっきの話は
どうなったん
だ！
いいから
言ってごらん。

……あ、
あ～～～～?
よしよし。

やあっ。

!?
ビチャッ
スポッ

あああああああ

うっ……
こいつ今自分から…

と、と、とにかく出さないと。

あ…？

えっ。

!?
えっ何!? 何なの!?

スクッ

分かってもらえたか？

私は生物の体内に入ると、
その生物を操ることができる。

ホーラこんな風に。
!?
やめろー!!
ふざけんな!!出てけー!!

あ、すまない。実演した方が分かりやすいと思って。
何だよ実演って!!!

さっき言った奴がやろうとしている事だよ。

奴も深海にいる他の仲間も同じ力を持っている。
皆、温厚な性格でこの力を生きていく上で必要な時だけ使っていた。

だが、
奴は違った。

現在地上で
最も力を持つ生物、
つまり人間の中に入り、
自分の思うままに
操ろうとしているのだ!!

この力は自分達を
もっと上の存在に
することができる。
こんな暗くて深い所
にいる必要なんてない
と仲間を唆した。

9

はぁ…
むっ何だ
その反応!!

人間は操り人形
のようになって
しまうのだぞ!?
人間の力を使って
何をしでかすかも
分からんのだ!!
バチャ
バチャ
バチャ
うわっ!!
胃の中で暴れん
じゃねえ!!

恐らく奴はもう誰かの体内にいるだろう。
それで他の人間を川に誘い込み、仲間を体内に入れるつもりだ。
なあ、魚を見に川へ行こう
その人間を見つけ出し、中にいる「奴」を捕えるのだ！

知らない。
やらない。
だから早く出ていってくれ。
何故だ！人類の危機だぞ。

そもそもどうして俺なんだよ？

………
この家の近くの川で猫の体に入ってここまで来たら君に会ったんだ。
……それって、
お、丁度いい

バッ
たまたま俺だったってこと!?
違う！運命だ!!
たまたまでこんなのに巻き込まれてたまるか!!!

おはよう。

チッ

……

結局昨日は色々やったが吐き出すのに苦戦。

ドコッ

やめろ!!!

オラァ。

……

はっ

帰ってきた母親に変な目で見られたのでそれ以上できなかった。

お便り募集

MONTHLY SHONEN SUNDAY

紺野アキラ先生への励ましのおたよりはコチラ!!
『知らない海の底』の感想や似顔絵もお待ちしてます。

宛て先

〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋2-3-1
小学館 ゲッサン編集部気付

君の学校ってあの川から見える所？
……そうだけど。
おー
よかった！

奴がいる可能性が一番高い所なんだ。
コミュニティが大きいからより多くの人間に関われるだろうからな。

……学校では話しかけんなよ。
いやいや、捕まえるためには協力せねば。
やらねーって！

洋平！

おはよう。

渚、
おはよ。

フフッ

え、何？
いやー

相変わらず、
すごい寝ぐせだなって。

13

おや？
直んないんだよコレ。

あ、ゆう子達いるから行くね。
タッ
おう。
ははーん。

なるほどォ。

うっるせぇな
さっきから!!
君、さっきの子が
好きなんだな。

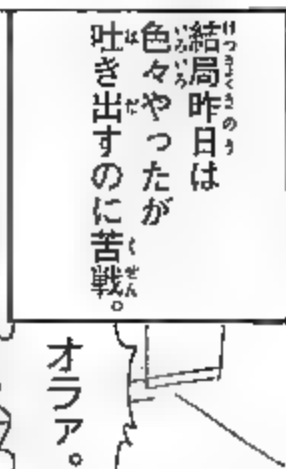
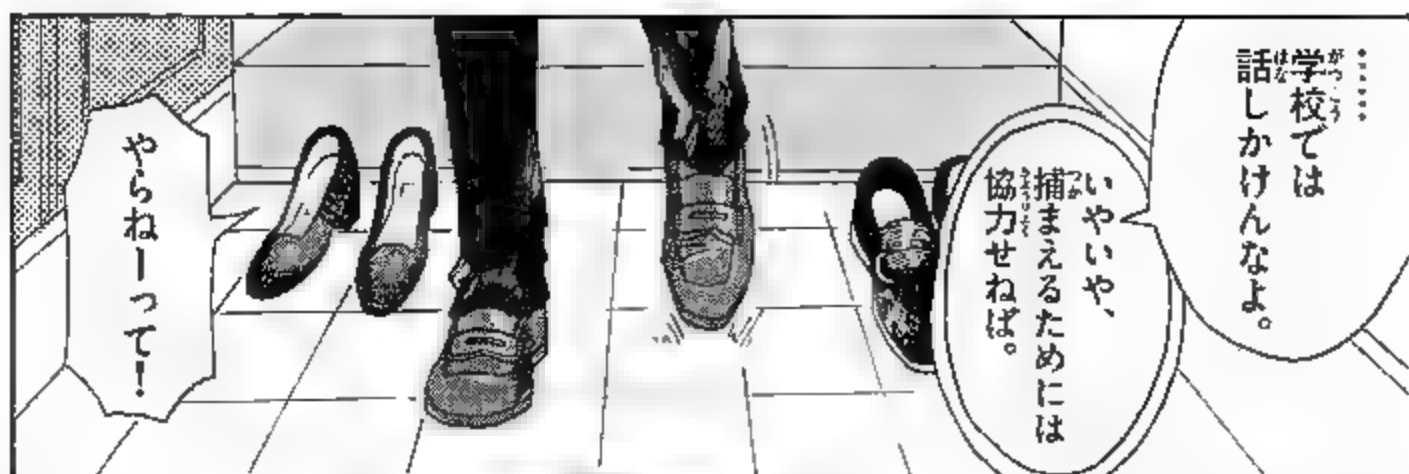
はっ、
はあぁ!?
付き合ってるのか?

いや…
恥ずかしくて
告白できないのか?
私がしてやろうか?
あ?

おーい!
ニコッ
なぎ…
や、

ドコ
やめろ!!
馬鹿か!!
うぐっ。

そういえば、
君 洋平って
いう名前
なんだな。
よろしくなっ
洋平!
うるせー!
気安く呼ぶん
じゃねぇ!!

ガタ

逆に何で
そんなに止め
たいんだよ。

私は昔 浅瀬で陸を
観察する事があった。

そこで人間の
魅力に気づいたのだ。

私は人間が
好きだからだ。

好き?

家族・恋人・友人
みんなそれぞれ
関係性は違えど、

そこには
愛があふれていた。

愛って…

ただ子孫を残すために
生きている私達とは
違っている。
幸せそうだった。
こんな生き方が
あるのだと思ったよ。

だから奴の
人間の良さを
無くすような、
やり方は気に入ら
ないのだ。

………
で、

どうやって
見つけるんだ?

おお!
協力する気に
なったか!
早く出て行って
もらいたい
だけだ。

昨日言ったように奴は川に人を連れて行こうとしている。
サラサラ

ペラ
○○川に
不審者出没
10月16日夕方に○○川で
刃物を持った男が
まずそれを未然に防ぐために、
これを様々な場所に貼る!

何を書かされてるのかと思ったら…
これを見れば誘われて行く人は減るだろ。

それであとは、川で見張りだ。
じっ
まじかよ!? やだよ!!

ペタッ

ペタ

ていうか、
ペタ

今時、高校生は川には行かない気が…
好きな女に誘われても?
いや、それは…

わっ。
ビクッ
何してるの？

これ、不審者だって。
へー……

あの辺今までそんな事なかったのに怖いね…
そうそうだから近づかない方がいい。
もし誰かに誘われても…

何それ！
あはは
気をつける。

今のは「君が危険な目に遭うなんて、耐えられない！」とか言う所じゃないか？
黙れ。

お、学校終了か？
じゃあ早速川で見張りだな。
え、本当に行くの……
行きたくねーめんどくせー。
ドンッ
え。

邪魔(じゃま)するなよ。

なっ…

渚…？

奴だ！中にいる！

何だ？まさか人間と協力とかしちゃってるの？

相変わらず変な思考してるな。

ほ、本当に…
でも今朝までは
普通に…

今までは
身をひそめて
いたんだ。
この女の行動を
観察するために。

どうだろう
似てるか？
にっ
この女
君の前だと
妙にニコニコする
んだよ。

似てねー!!
渚はそんな
不気味な笑い方
しない!!

おい！
アイツを渚から
出す方法教えろ!!
えっああ。

おい…

あれ、ずれてしまった。
まだ慣れないな。

と、とりあえず
一旦ここを離れよう、
階段じゃ危ない…

ドサ

私の存在を
知っている人間が
いると困る。
いなくなってほしい。

ど、どうすんの!この後!!

至って単純なのだが…

スカ

イラッ

26

よし！今だ！

っ……！

サッ

ザッ

ピタ
やっぱり無理!!!
洋平!?
好きな女子に暴力なんてできない!!
はっ
そ、そんな事言ったって!!
俺に考えがある!言う通りにやってくれ!!
えっ。
渚、ごめん!!

ドゴッ
ぐっ。
…………
ごめん…

くっ、
くそ野郎…っ。
っ…う。

っ……!!!!

ボタッ

ボタッ

ビダーン

くそ!!
何故邪魔をする!!
折角の力の有効活用が!!

コイツが…

!
渚! おい!
大丈夫だ。

奴に意識を支配されたショックで、
一時的に眠っているだけだ。
よかった…

とりあえず洋平… 水…
あ。

あれはいい判断だった！
アアアア

私が彼女の中に入り奴を引きずり出すなんて！

でも…
あんな形でキスするなんて…
ボロッ

………
奴が、彼女は君の前ではずっと笑っていると言っていただろう。
つまり、そういうことなんじゃないのか？

告白してやり直せばいいさ。
もう一度接吻しろ。
せっぷんって言うなよ。

ズズッ
……
なんで魚に助言されないといけないんだ。

それより洋平、
何故、
そいつを助けたんだ。

その辺に置いておけば、そのうち死ぬのに。

渚にあんな事したのは許せないんだけど、
やっぱ死ぬって分かってて放置はできないな。

お前も、もうしないよな。
フンッ今回は死ぬのが嫌だから仕方なく帰るのだ！

いずれ、また、
や・ら・な
い・よ・な？
やめろオオ
シャカ
シャカ

安心しろ。
私が監視する。
下手な真似してみろ！
お前より小さい仲間に
中に入ってもらって
操ってやる！
ケッ

しかし、やはり私は人間とは違うな。
そいつを助けるなんて考え、私は到底辿りつけない。
人間は、
私の憧れなのだな。

何かに憧れてる生物なんて人間くらいだろ。
全然違うってわけじゃないんじゃねぇの？
……ああ、
…そうかなそうだろうか…

紺野先生は次回作を構想中！

君のこと 忘れないよ。

おう。

あ、起きた？

びっくりしたよ 急に倒れて。

うん、俺が 保健室まで 運んだ。

あのさ、

これから 会える？ 言いたい事 あるんだ。

応援よろしくねっ！

知らない海の底 ―完―